

ごしごし福島
富岡町民劇サポート
活動報告書



20210113

富岡町民劇サポート

2019年10月29日。富岡町民劇が、渋谷区国立オリンピック記念青少年総合センターにて「おばあちゃんが帰る日」を公演。ごしごし福島は、富岡町民劇をサポートしました。



民劇スタッフとごしごしスタッフ。

富岡町民劇サポート

大谷先生の大学から、学生が手伝いに来てくれました。



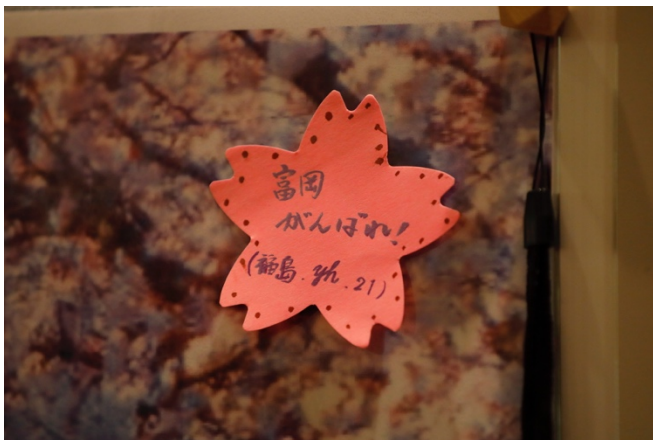
富岡町民劇サポート

ゴシローも応援！



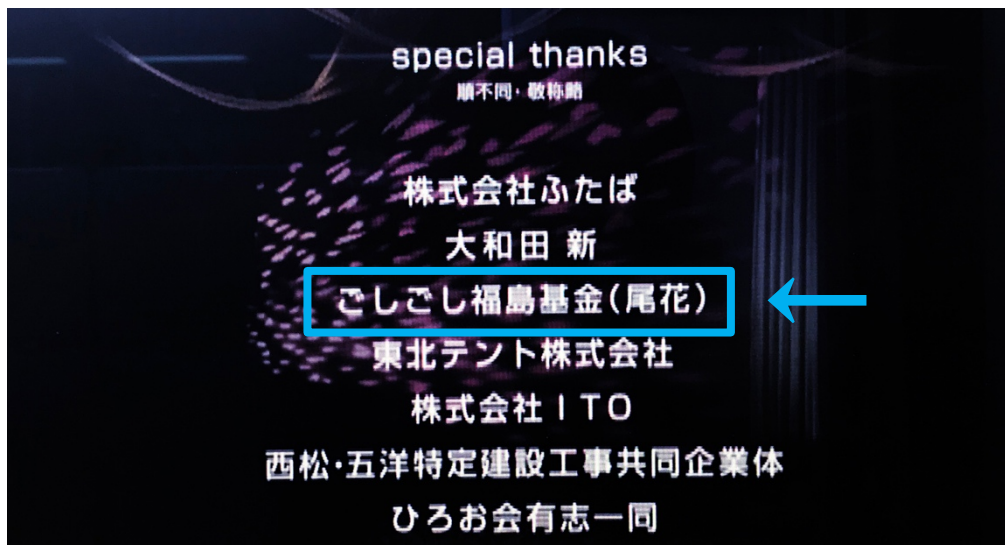
富岡町民劇サポート

観に来てくださった方々が、桜のカードにメッセージを書いて、富岡町で咲き誇る桜の写真の上に貼りました。



富岡町民劇サポート

第一回公演のDVD化へのサポートもしました。



富岡町民劇「おばあちゃんが帰る日」レポート

公演前。念入りに最終確認。



富岡町民劇「おばあちゃんが帰る日」レポート

おばあちゃんが避難先から、富岡町に帰って来たシーンから始まります。



スーパーで。



海で。



富岡町民劇「おばあちゃんが帰る日」レポート

高校で。富岡高校の校歌を歌います。



久しぶりに会った先輩後輩。



富岡町民劇「おばあちゃんが帰る日」レポート

老人会の有志による踊り。



イノシシ親子との出会い。



富岡町民劇「おばあちゃんが帰る日」レポート

それぞれの決意。



みんなで合唱。



エンディング。



最後に、代表の青木さんからご挨拶。



ふるさと・きずな維持・再生支援事業
～ゲキでゲンキな町づくり～
被災後9年富岡町からの発信です!!

富岡町民劇
ホーム 作・演出 野崎美子
(原案 青木淑子)
おばあちゃんが帰る日

2019年10月29日(火)
17:30～開場
18:00～開演
観劇協力券
¥1,000 自由席
国立オリンピック記念
青少年総合センター小ホール

備えていても
帰らなくても
送っていても
町はいつても
あなたを待つて
ここにありー

主催：NPO法人 富岡町3・11を語る会 後援：富岡町
共催：富岡町教育委員会 日本演劇教育連盟
問合せ NPO法人 富岡町3・11を語る会 富岡事務所 0240-29-5431(青木) 開催 平日9:00～17:00



ご挨拶

富岡町長 宮本 皓一

富岡町民劇「ホーム」が首都圏で上演されますこと、心からお祝い申し上げます。

東日本大震災と原発事故から8年9か月が経過した本町においては、平成29年4月に一部区域を残して避難指示が解除され、昨年4月には町内での小中学校の再開、本年4月には認定こども園が開園するなど、元気な子供たちの声が聞こえるようになり少しずつではありますが、町に活気が戻りつつあると感じております。帰還困難区域の再生に向けては、特定復興再生拠点復興再生計画(平成30年3月内閣総理大臣認定)に基づき、令和5年春の拠点区域の避難指示解除を目指し、除染とインフラ復旧を一体的に進めているところであります。9月1日現在、町に居住届を提出された方は1,100名を上回り、帰還された町民に加え、新たに町民になられた方も年々増加しており、本年1月に町内で上演されました町民劇「ホーム」は、町民をはじめ、復興事業に携わる10代から70代までの幅広い年代の方々にご参加いただき、人と町のつながりや交流促進に大きく寄与するものとなりました。

本日ご来場いただきました皆様には、本町の特殊な状況をご理解いただき、今後ともご支援とご協力を賜うることができましたら幸いです。結びに、富岡町民劇「ホーム」の上演にあたり格別のご尽力を賜りました関係者の皆様に心から感謝を申し上げますとともに、参加される皆様の一層のご活躍ご発展を祈念申し上げ、挨拶といたします。



主催者 ご挨拶

NPO法人 富岡町3・11を語る会
代表 青木淑子

東京の空の下で

「富岡はこれから始まるんだ!」
「富岡で何かを応援したい!」
「ここで遊ぶ人の顔がみたい。」

今年の1月26日、富岡町文化交流センター学びの森大ホールで、私達が上演した町民劇「ホーム」の中の台詞です。この台詞には、出演者全員の思いがこもっていました。6年ぶりに避難指示が解除され、一部を除いてはあっても、帰還することが可能になった町。避難指示のもとでは、あれほど帰りたいと思った町であっても、いざ、帰ってもいいとなったときに、帰ってくる人、帰れない人、送っている人、様々な現状があります。

微妙にすれ違う人々の心。町は復興の途についたとはいえ、家々の解体が進み、更地が増え、町並みも消えました。それでも、今、町に暮らす人の顔は爽やかで元気です。ふるさとに帰った心の安らぎが感じられます。同時に、遠く離れてふるさとを思う人に対して、帰りたいけれども帰れない人に対して、「いつても帰れる場所」「思い出せるそこにある場所」としてのふるさとを創っていくのが、帰った者の務めだと思っています。町を創るのは「人」町を壊すのも「人」だとバリエードが立っている町であっても、帰ってくる人、思い出す人を町は決して抱えない町は待っています! いつでも、「COMING HOME!」です。

富岡を愛する人たちが創った町民劇。東京の空の下で歌います。「オーカミング ホーム」

ご来場くださった皆様に心からの感謝と愛を込めて!!



語り人
①水瓶座 ②B型 ③東京都(渋谷区松濤)
④福島県双葉郡富岡町 ⑤福島県郡山市 ⑥地球

演出家 野崎美子

福島県出身。舞台芸術学院、青年座付属養成所卒業。1996年、文化庁在外研修員として、英国国立演劇アカデミーで、俳優教室や、V.V.セラコヴィッチの下で演出を学び、モスクワユニバーサル・シアター客員俳優となる。2001年、モスクワ芸術座付属演劇学校マスタークラス卒業。帰国後、MOBAアカデミアを中心に演出、アクター・トレーナーとして活躍。2011年より同主催による「演劇キャンプ」の講師を務め、富岡町との絆を深める。



①水瓶座 ②O型 ③福島県郡山市
④東京都大田区 ⑤東京都大森駅
⑥劇場

あらすじ

夜ノ森の桜が満開の春の午後、乙女ばあさんは富岡町に住むために避難先から帰ってきた。震災から7年、富岡町にはかつての町並みはなく、新しい町作りへの取り組みが始まっていた。富岡町でかつての友人達から大歓迎され、喜びを隠せない乙女ばあさん。引っ越しの手伝いに来た家族達はそんな乙女ばあさんの姿をみて、各々の町への想いを考え始める。避難生活の中で気付かないようにしていた自分の想いに素直に向き合い始めていく。

自分にとって本当に大切なものとはなんなのか。

それぞれの心に刻まれる「ホーム」とはどこにあるのだろうか。乙女ばあさんと別れて各々の場所に戻る家族の胸には新たな町への想いが生まれていた。



富岡の現状

スキの穂がたなびいている 北へ北へ

懐かしい富岡の空へ向かって

(佐藤シゲ子作「富岡の空へ」より)

2011年3月11日の地震津波に加えて原子力発電所の爆発というあろうはずもない災害によって、双葉郡富岡町の町民は、3月12日全町避難の指示のもと、町を離れた。以来8年と7ヵ月、16,000人の町民は、福島県内はもとより、日本中に避難し、「富岡の空」を懐かしんで過ごした。(過ごしている)

2017年4月1日、6年ぶりに、町の避難指示は解除された。しかし、いまだ立ち入り禁止の地区が残り、バリケードが町の一部を遮っている。

現在、富岡町の居住者数は1,100名。人の住まなかった時間の長さは、家の破壊、田畑の荒廃、町並みの消滅という形で、今、私達の前に「町の現実」を示している。ないものを数えて、「もうこの町は終わりました。」と言う人もいる。ないことをスタートに考えて、「新しく創っていく町だ」という人もいる。町に帰ってきた町民もいる。帰らないと決めて避難先で暮らす町民もいる。迷い悩む町民もいる。

雨空ひとり占め
富岡は青い！



帰って来た子ども達の笑顔

ある日突然始まった理不尽な避難生活は、今現在も、人々の心を右に左にと揺り動かして、ふるさとの空に向かって様々な言葉を送り続けている。



第2原発をのぞく「小浜みどり園」
夢は、富岡漁港の魚をカルパッチョにして、ワインでカンパニー！



2017.10 《常盤富岡駅周辺》
津波で流された駅が新設され、品川からのレールがつながった！



総合ショッピングセンター「さくらモールとみおか」
復興の拠点となる！



9年ぶりの田植え。
震災前に比較すると「農業復活」とは程遠いけれど、それでも家族、老人会、婦人会集まって、昔ながら田植えが出来ました。



「マンガアライ」「田植えふるまい」
田植え作業の楽しみ、
沢山の郷土料理が並びます！



2019.7 《富岡駅前いきいきフェス》
参加者が想像以上の600人超え！
町のにぎわい最高！

1歩また1歩、
あきらめないで、前をむきたい！

主題歌

家に帰ろう

野崎美子作詞
安藤由布樹作曲

家に帰ろう (Oh, coming home)
桜ほほ笑む 夜の森に (手を振り)
家に帰ろう (Oh, coming home)
緑萌え立つ並木道を (明日へ)
今夜はゆっくり (星をかぞえて)
君と歌いながら (春の匂いの中)
この街が (少しだけ)
好きになった
ここにいる自分が (少しだけ)
好きになった
分かれ道に来て
バイバイ！ また今度
って言える幸せに気づいた
思い出になった時間を
もしも1日だけ繰り返せるなら
きっと何でもない 平凡な日を選ぶ
母さんに起こされて 父さんにおはよう
朝日の当たるテーブルにミルク
それだけでさえ喜びあふれる
かけがえのない至福の時
Oh, coming home
この空の下 灯る明かりに祝福を

家に帰ろう (Oh, coming home)
海のささやき聞きながら (手を振り)
家に帰ろう (Oh, coming home)
赤い花咲く散歩道を (明日へ)
今夜は黙って (風に吹かれて)
君に心合わせ (春の匂いの中)
この街が (少しだけ)
好きになった
ここにいる自分が (少しだけ)
好きになった
分かれ道に来て
バイバイ！ また今度
って言える幸せに気づいた
思い出になった時間を
もしも1日だけ繰り返せるなら
きっと何でもない 平凡な日を選ぶ
玄關に並ぶ靴 行きますの声
窓の向こうに母さんの笑顔
それだけでさえ喜びあふれる
かけがえのない至福の時
Oh, coming home
この空の下 生きる我らに祝福を
思い出になった時間を
もしも1日だけ繰り返せるなら
きっと何でもない 平凡な日を選ぶ
玄關に並ぶ靴 行きますの声
窓の向こうに母さんの笑顔
それだけでさえ喜びあふれる
かけがえのない至福の時
Oh, coming home
この空の下 生きる我らに祝福を

富岡町民歌
富岡わがまち

森菊蔵作詞
前田俊明作曲

さくら咲き つつじも咲いて
夜の森は 花の季節よ
さわやかに風さへ 薫り
山青く せきれい歌う
ああ 富岡に わがまちに
朝の陽が大きく 昇る

福島県立
富岡高校校歌

加藤武夫作詞
玉山英光作曲

翠の丘辺 空に映え
咲いてぞう 花々の
天(あめ)にも地にも 満ちみちて
光に生きん 清く明るく
富岡高校
吾等が学校(まなびや)

潮騒遠く 鳴(きさや)けど
右に左に 揺(ゆる)ぐかは
自由の心 天(あま)駆ける
誇(たけ)に生きん 強く正しく
富岡高校
吾等が学校(まなびや)

輝く瞳 若き日に
学ぶ友達(ともども) たずさえて
太平洋(おおうなばら)を 姿見に
希望(のぞみ)に生きん 広く優しく
富岡高校
吾等が学校(まなびや)

富岡町民劇「おばあちゃんが帰る日」レポート

会場に、立派なお花も届きました。



富岡町民劇「おばあちゃんが帰る日」レポート

公演の翌日（2019年10月30日）の朝日新聞より。

東京 四域 14版 △

2019年(令和元年)10月30日(水)

享月

三

「故郷に戻れぬ現実」町民演じる



富岡町民劇「ホーム おばあちゃんが帰る日」のリハーサルのワンシーン。29日、渋谷区

一時全町避難の福島・富岡「一人でも多く関心持つて」

戻っていいといわれても、戻れない現実がある――。東京電力福島第一原発事故で全町避難を強いられた福島県富岡町の町民らによる町民劇が29日夜、渋谷区の国立オリンピック記念青少年総合センターであった。360席のチケットは完売し、舞台は大きな歓声に包まれた。

富岡町は東日本大震災が起きた2011年3月11日時点で約1万6千人が住んでいた。原発事故の影響で避難指示が出され、翌12日には隣接する川内村へ、16日には郡山市へ避難。17年春に一部で避難指示が解除されたが、今も帰還困難区域が残る。多くの町民はいわき市や郡山市で暮らし、町内で暮らすのは1119人（10月1日時点）にとどまっている。

舞台は、乙女はあさんが避難先から町へ帰ってきたところから始まる。見送りに来た家族が富岡の町を久々に歩く中で町とのつながりを考

え始め、避難生活の中で気付かないようにしていた思いに向き合い始める、というストーリーだ。

原案を書いた青木淑子さん（71）は県立富岡高校の元校長で、震災後はNPO法人富岡町3・11を語る会をつくって「語り人口演」を国内外で開いてきた。町民の中には帰る人、帰れない人、迷っている人がいて、現実には複雑だ。町の現状を立体的に伝え、人と人がつながる場所をつくりたいと思い、演劇にたどり着いたという。

「戻ってもいいといわれても、戻れない現実があることを知ってもらい、一人でも多くの人に福島に関心を持つてもらえたら」と話す。

乙女はあさんを演じた渡辺里美さん（57）は富岡町から避難し、今もいわき市に生活拠点を置く。「町を再生したい気持ちはあるが、一歩ずつしか進まない現実もある。でも明るい未来を目指していきたい」と前を向いた。

（西村奈緒美）

中央 新宿
品川 北
世田谷
中野 杉並
板橋 練馬

「真・話題の提
などの連絡先
東京総局
111
東地5-3-2
3-5541-8435
3-3545-2019
sky@asahi.com

ご用は
0120-33-0843
(7:00~21:00)
に用は
03-3547-5552
みのご用は
03-3544-7621

うの天気
降水確率 12~18時

大手町	10
練馬	10
府中	10
八王子	10

府中 八王子

東 東

東 波 0.5m

最高 最低

23度 11度

22度 11度

21度 10度

20度 10度

を求めた都内の公立・公
的病院

に老人保健施設を併設して
いる。台東区千束3丁目

にあり、また、富岡町民
院、奥多摩町氷川

診療所に医師が通うなど、一した。なくなるその

富岡町民劇「おばあちゃんが帰る日」レポート

観てくださった方々の感想。

最後の歌でなんだか涙が込み上げてきました。
プロがやっているものとはまた違う、
なんというか、人の『思い』って、
やっぱり人の気持ちを動かすものですね。
みなさんもいろんな思いをもって
7年過ごしてきたうえでのことだものね。
このお芝居が続いてくれることを願っています。

実際に経験されて、かつ今もその中で
生きていらっしゃる方々の本物の思いが舞台から
伝わってきて圧倒されてしまいました。
いっぱい印象的な場面はあったけど、
私も最後の歌のシーンは泣けてきました。
子どもたちも、来て良かった！
って心から言ってたよ。
間違いなく彼らの中に残ったものが
あったと思います。本当にありがとうね。
(子どもを二人つれて来てくださった方)

楽しみにしていた富岡町の方々による町民劇・・・
言葉ではうまく表現できませんが・・・
皆様の様々な思いを少し感じる事ができました。
自然災害の地震でありましたが、
原発事故は、やはり、違う・・・
ふるさとを離れなくてはならなくなった
皆様のお心は、はかりしれない思いで、心痛みました。
ここ最近の千葉県が受けた3つの自然災害と
少し重なりながらも・・・
様々な場所で、様々な思いをされている方々が、
お互いに心寄り添い、支えあっていく
心のつながりの大きな流れを感じ、
それがどんどん、日本中に
広がっていきますように・・・と、
上演が終わって思いました。
(千葉で台風と大雨の被害を立て続けに受けた直後に
舞台を観に来てくださった方)